

市長と語る会

市長が直接、市の財政状況や重点事業などを説明し、市民の皆さんと意見交換を行う「市長と語る会」を11月19日から28日に市内の各町公民館・納所会館の6か所で開催しました。参加いただいた方からのご意見・ご要望の一部を紹介いたします。



Q 校舎跡地利用として温泉を引いて憩いの場という案などが地域にあったが、もし多額の予算が必要という場合は資金的なものを考えてもらえるだろうか。

A 跡地利用の財政面は中期財政計画で検討しています。利活用は様々な方法があり、予算も大事で、検討が必要です。

Q 農業集落排水事業の進捗状況について、当初は85%以上加入を目標としていたが依然加入されていないところもある。これでは基本料金が高くなるのではと懸念している。加入してもらわないと洗剤などが川を汚している。

A 加入促進については地域のみなさんの協力をお願いしたい。

Q 中多久踏切そばの横断歩道の白線が消えかかって、安全な横断歩道になっていないようだ。

A 横断歩道は警察で所管され、対応と定めてあるので、早急な改善を警察に要請したい。

Q 東部小の校舎と体育館の利活用はどうなるのか。各小学校に対

策検討委員会があるが、東部小は立ち上げさえない。また、現中学校教室入口ドアも使えない状態も見られるようだ。

A 東部校区では東部中学校校舎を中心に学校教育充実を行い、小学校校舎は1階を放課後児童クラブに使う予定のため各委員会は設けず、全体的活用は検討中です。体育館については現状の活用状況を確認し対応します。ご指摘の教室ドアは点検して改善します。

Q 中央小ではスクールバスの区域内と区域外の子がいる。放課後にバレーボール等に参加する児童は一端バスで家に帰り、南多久公民館に行かねばならないようだが、学校から公民館へ行けるようにするなど、スクールバス活用の配慮はできないだろうか。

A スクールバスは、まず安全で確実な運行が大事な基本です。その上で登下校だけでなく、広い活用ができないだろうかと検討していくこととなります。地域の状況等に応じた対応も必要と思われるので、そのような意見への対応も検討していきたい。

Q 秋の紅葉は盛大で観光客も多いが、春は少ないようだ。観光客をいかに多く呼びかかると、学校を休みにして参拝させるなど、子どもたちから紅葉を盛り上げていく方法も大切ではないか。

A 春の紅葉は古くから4月18日と定めてあり、平日開催もあります。まず多久市民が参拝し、他に勧め広げるのは大切な視点です。観光振興協議会と意見交換して対応充実を図りたい。

Q 婦人会組織が弱くなっている。最盛期には3500人程いたが今は400人未滿。戸数比率でみると5%ほど。婦人会が崩れることで、町のまとまり、地域力がなくなることを危惧する。婦人会の組織づくりなどに行政から指導や支援をしていただけたらと切に思う。

A 地域防災の観点からも婦人会がない所でも、女性の担う役割は大きい。対応も含めて年一回は本格的に意見交換したい。

■ 問い合わせ

総務課 広報広聴係

☎ 75-12280

市長コラム

温 | 故 | 創 | 新

Message for citizen

安倍内閣総理大臣との御縁

市長 横尾俊彦

年末の総選挙勝利で始動した第二次安倍内閣。経済再生・危機突破を掲げ、就任早々から施策展開の様子が報じられている。内外に課題山積で、さぞ大変かと想像するが、是非とも踏ん張って実力を発揮し、難局を超えてもらいたい。

実は安倍晋三内閣総理大臣、菅義偉官房長官には御縁を頂いている。最初に総理に就任され、地方分権改革を推進される正月のある日、「多久市の横尾市長さん、菅ですが」と電話が入った。「安倍内閣は地方分権改革推進のため、7人の委員で委員会を立ち上げます。横尾市長に委員に就任してほしい」とのこと。全国約800人の市長から唯一人委員にという白羽の矢だ。安倍総理と菅大臣の直々の意向とも話された。「微力の限りを尽くさねば」と感じ、当時の古賀市議会議長に相談すると「大いに頑張れ」と激励を受けた。平成19年4月2日夕方5時半に首相官邸での初会議に臨んだ。安倍首相からは「大胆で前例がない改革案をめざし忌憚なく議論して提言してほしい」、菅大臣からは「頂いた提言は全て実現したい」と強い思いを語られた。お二人の気迫は今も心に残る。委員会審議で省庁幹部と議論して人脈もでき、様々な要望等もやりやすくなり助かっている。お二人が首相と官房長官になられた。人柄と気迫を知る者としてリーダーシップに期待したい。また安倍昭恵総理夫人が多久に来られた折には、伊万里・森永家のご先祖墓参にも御伴した。多久のためご指導頂きつつ新時代を拓きたい。